

-SENZOKUGAKUEN college of Music-

電子オルガンによる
ピアノ協奏曲と管弦楽の夕べ

2022. 7. 18(月・祝)

15:00 開演 14:30 開場

洗足学園音楽大学

前田ホール

- Program -

1. ルスランとリュドミラ序曲 / M.グリンカ

Ruslan and Lyudmila Overture / Mikhail Glinka

電子オルガン 向田真未 (学3) 伊藤友香 (学3) LIU ZIBO (学3)

打楽器 Timp. 高橋芽生

2. ピアノ協奏曲 第11番 ニ長調 Hob.XVIII-11 / F.J.ハイドン

Piano Concerto in D major Hob.XVIII-11 / Franz Joseph Haydn

ピアノ 木暮萌々香 (学3)

電子オルガン 米子理紗 (学4) 石倉杏華 (学3)

山崎純 (学2) DING YU (学3)

3. ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 Op.37 / L.ベートーヴェン

Piano Concerto No.3 c moll Op.37 / Ludwig van Beethoven

ピアノ 梅原麻音 (学2)

電子オルガン 第1楽章 稲葉絢音 (学3) 平尾日菜向 (学2) 青木美苗 (学3)

第2・3楽章 窪山花 (学3) 渡木優乃 (学4) 中村沙耶 (学2)

打楽器 Timp. 近藤寛斗

～ 休憩 ～

4. ヘンゼルとグレーテル序曲 / E.フンパーディンク

Hansel und Gretel Overture / Engelbert Humperdinck

電子オルガン 兒玉もも (学3) 渡邊琴美 (学3)
山田日向 (学2) SHAO XIAOLUO (学3)
打楽器 Timp. 東廉悟 Tri. Cym. 佐藤綾香 Tamb. Tri. 高橋芽生

5. 死の舞踏 / F.リスト

Totentanz / Franz Liszt

ピアノ 山口琴世 (学3)
電子オルガン 内海菜々美 (学4) 永田 凜太郎 (学2) 瀬戸口祥 (学3)
打楽器 Timp. 東廉悟 Cym. 近藤寛斗 Tri. 高橋芽生
Tamtam 佐藤綾香

— Program note —

ルスランとリュドミラ序曲 / M.グリムカ

この曲は、1842年に完成されたオペラの序曲です。大公の娘リュドミラ姫と騎士ルスランとの婚礼の宴の最中に突然、魔術師チェルノモールが現れ、リュドミラはさらわれてしまいます。大公は、大切な娘を取り戻すため、ルスラン、そして参列していた騎士や王子に、救出した者に娘を与えると宣言します。ルスランは、リュドミラを救出するための旅が始まります。様々な魔術や誘惑、妨害などを切り抜け、無事助けることができるのか、、、。物語のオープニングにふさわしい、華々しい躍動感に溢れた楽曲をお楽しみください。

(向田真未)

ピアノ協奏曲 第11番 ニ長調 Hob.XVIII-11 / F.ハイドン

今回演奏する「ピアノ協奏曲 第11番 ニ長調」は、フランツ・ヨーゼフ・ハイドンが1780年頃に作曲した協奏曲で、彼が鍵盤楽器のために作曲したもののうち最も広く知られている作品です。ハイドンは、現在のオーストリア出身の音楽家で、古典派を代表する作曲家の1人です。数多くの交響曲、弦楽四重奏曲を作曲し、「交響曲の父」「弦楽四重奏曲の父」とも呼ばれています。

今回演奏する協奏曲の作曲の経緯や正確な作曲年数は明らかではありませんが、1781年頃に、ハイドンはモーツァルトと親しくなったことにより、本作品はモーツァルトのピアノ協奏曲の影響を多く受けているといわれています。楽曲は、全3楽章から構成されており、第1楽章、第2楽章にはカデンツァを挿入する場面があります。第1楽章は、ニ長調の明るく華やかな第一主題から成るソナタ形式、第2楽章では一転してイ長調となり、第3楽章では再びニ長調の Rond 形式となります。古典派音楽の雰囲気存分に味わって頂ける作品です。

(木暮萌々香)

ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 Op.37 / L.ベートーヴェン

この曲は、1796年から1803年にかけて作曲されました。ベートーヴェンはピアノ協奏曲を5曲書きましたが、3番は唯一の短調(ハ短調)の曲です。ベートーヴェンの作品では、交響曲第5番、ピアノソナタ第8番、第32番、序曲「コリオラン」、ヴァイオリンソナタ第7番などもハ短調です。

初演は1803年4月5日。独奏はベートーヴェン自身が務めました。楽譜には記号のようなものが書かれているだけで楽譜は完成していなかったようで、ほとんど即興で演奏したと言われています。上演時、当時の指揮者は譜めくりを頼まれましたが、彼が目にしたピアノのパート譜はほとんど空白で、どこでめくったらいいのかわからず、指揮者は大変な緊張を強いられたそうです。楽譜はベートーヴェンの頭の中であって、記譜が間に合わなかったのです。

ベートーヴェンはそれを面白がっていたようで、演奏会終了後の打ち上げでは2人で腹を抱えて笑いあったそうです。

翌1804年には、ピアノパートの楽譜が完成して、ベートーヴェンの弟子のフェルディナント・リースがピアニストを務めて完全な初演をされました。

第1楽章 Allegro com brio ハ短調 2/2 拍子

協奏的ソナタ形式。第1主題が「交響曲第5番(運命)」のフィナーレが先取りされていることがとても興味深いです。

第2楽章 Largo ホ長調 3/8 拍子

複合三部形式。深い祈りに包まれた非常に美しい楽章です。

第3楽章 Molto allegro ハ短調 2/4 拍子

ロンド形式。減7度の下行により独特な緊張感を持った主題が繰り返された後、中間部を経過してドラマティックに盛り上がります。最後はプレストとなり、ハ長調に転調して華やかに曲を閉じます。

(梅原麻音)

ヘンゼルとグレーテル序曲 / E.フンパーディンク

「ヘンゼルとグレーテル」と聞くと、あの有名なグリム童話を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。ドイツの作曲家エンゲルベルト・フンパーディンクは、そのグリム童話を原作として、1893年に歌劇として初演しました。本日は、その歌劇の開幕前に演奏される序曲の部分を、電子オルガン4名の演奏でお届けいたします。

(兒玉もも)

死の舞踏 / F.リスト

1847年、フランツ・リストによって作曲され、弟子のハンス・フォン・ビューローに献呈。「死の舞踏」といえば、フランスの作曲家サン＝サーンスによる作品が非常に有名である。しかし、リストがこのアレンジに着手するずっと以前にオリジナル作品として本作品を作曲した。1830年にベルリオーズの「幻想交響曲」の初演をパリで聴き影響を受けた。また、1838年にイタリアを旅した時、ピサの墓所カンポサント教会の14世紀のフレスコ画「死の勝利」を見て深く感銘を受け、インスピレーションを得たとされる。グレゴリオ聖歌の「怒りの日」の旋律を用いた一種のパラフレーズが印象的に繰り返し用いられる。ピアノとティンパニの反復に伴われた管楽器・低音弦による「怒りの日」の旋律で幕を開け、短いカデンツァとピアノによる主題呈示の後、5つの変奏を経て、コーダを兼ねる最後の変奏で劇的な終結を迎える。

(山口琴世)

【ご来場のお客様へご協力をお願い】

◎入場制限について（次に該当する方はご入場いただけません）

- ・37.5℃以上の発熱がある方、発熱が続いている方
- ・風邪の症状（発熱、咳、くしゃみ、喉の痛み等）がある方
- ・強いだるさ（全身倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある方
- ・その他体調に不安がある方（味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節痛、下痢、吐き気等）
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触があり、行動制限中となっている方。
- ・政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触があり、行動制限中となっている方。

※基礎疾患（糖尿病・心不全・呼吸器疾患等）がある方、妊娠中の方は、医師の判断や関係機関の情報を確認の上、慎重なご判断をお願いします。

◎ご入場に際し、以下の事項についてご協力をお願いします。

- ・上記「入場制限について」への同意
- ・感染者が発生した場合には、必要に応じてご来場者情報を保健所へ提供させていただく場合がございますので予めご了承ください。（提出いただいた個人情報新型コロナウイルス感染の発生がなかったことを確認の上、演奏会約三か月後に適切に削除します）
- ・マスク着用の徹底（不織布マスクを推奨、鼻にフィットさせ正しく着用のこと）やソーシャルディスタンスの確保などエチケットの厳守をお願いします。
- ・楽屋面会、花束やプレゼントの持ち込みはお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしていただきますようお願いいたします。

【監修】

電子オルガンコース 赤塚 博美(統括教授)

ピアノコース 清水 将仁(統括教授)

【指揮】 竹内 聡

【スタッフ】 AC：西窪 峰人

音響：能藤 伸(ミュージック・クラフト)